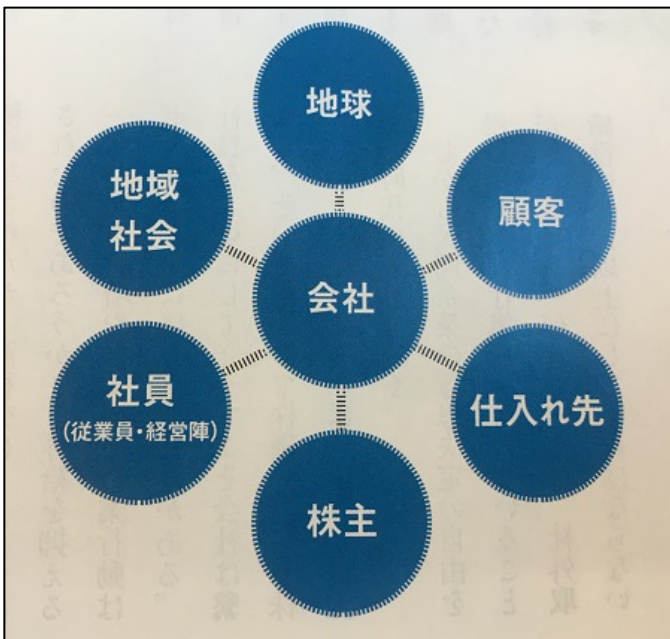


平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 2月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。



さて、随分雰囲気が変わって来ました。先日出張先で夜の食事に街に出ました。人口 100 万人都市の繁華街は閑散としていました。18 時の予約で緊急事態宣言下との張り紙があったり無かったりしますが、8割がたのお店はシャッターが下りていました。

予約していたお店は、とても美味しい料理を次々と出してくれました。すっかり堪能させてもらった後、20時半頃にそのお店を出ようとする、シャッターが下ろされていました。店主曰く『自粛ボランティアが出回っていて、とてもうるさく注意をする』との事でした。私の宿泊先は駅を挟んで向こう側でしたので、しばらく歩いていると大きなボリュームで何やら放送しながら走ってくる車がありました。近くに来ると何と覆面パトカーでした。

聞き取りにくいのですが、どうも自粛ボランティアと無用の揉め事を避けるようにとの注意をしている内容に思えました。自粛ボランティアに注意を促しているのか、注意を受ける方に注意を促しているのか、どちらか明確ではありませんでしたが、雰囲気的には後者に向けた自粛を促す立場の様子でした。行政のスタッフなら未だ分かるのですが、覆面パトカーだという点が何とも違和感がありました。もっともその車がパトカーだったかどうか不明です。何故なら、運転している人はユニホームでは無かったからです。赤色灯を回転させているものの、この車自体が自粛ボランティアだったかもしれません。

色んな意味で世界を象徴する米国の昨今の動きを見ていると、今月 6 日の国会乱入騒動から、雲行きがある程度ははっきりして来たように見受けられます。マスコミが流すビデオが、かつての 9.11 のように予め発生する事を予期してカメラを設置していたかのようなベストショットで溢れていました。コロナ騒動が発生した時、私はこの世界の王様が領民に仕掛けた戦争だと感じていた様子の文章が残っています。よくよく周囲を見回してみると、地球温暖化人為説同様、何処まで正確な状況を把握しているのか不明な事柄にもかかわらず、その対処は似ていて、どうも経済を停滞若しくは破壊する方向に導かれているように感じてしまいます。不思議な事にその行く先に国家衰退の意図があるような気がしてなりません。果たして消費税を 8%から 10%に引き上げた割に 108 兆円ものコロナ支援金をあつという間にして、それでまた支援が必要な政策を採っているのは私にはまったく理解できません。

コロナ騒動の自粛で売り上げが下がっても従業員に給与を支給継続できるように内部留保を推奨しています。それならその為の内部留保分は経常利益から

控除しろというのが私の言い分です。

でも、何となくこの経済縮小のパターンが見えて来たような気がします。どうも人間の暮らしは、生き物が生命を維持する必要条件まで下がるのかも知れません。私が子供の頃には海外旅行なんて考えられませんでした。もっとも必要もありませんでした。この『もっとも必要ありませんでした』という差しあたって必要のない事業は衰退するのかも知れないという事です。

そのように考えると、食品販売はどこまでを必要最小限と捉えるかの問題が、ひとつのヒントになりそうな気がします。下がるどころまで下がる、『お腹が膨れさえすればいい』となりますが、これは病気との因果関係がハッキリしています。先日もTVでアルツハイマーの治療と予防の特集をしていましたが、基礎は生活習慣を正すとして、その中の重要な部分が食生活にあるとしていました。シンプルなルールはジャンクフードを避けよとか、言い換えれば自然に出来たものだけを食べよと言っていました。その食べるものは最近の科学で明らかになって来た細かな諸条件があるようですが、ひとつにはその『自然という表現』にあるような気がします。

一昨年、あるセミナーで当社の研究と実践を発表する機会を得ました。その内容は20年前に比べて野菜の栄養成分含有量が半分に減少している事実が統計的に明らかになっている、ではそれらの野菜に含まれる栄養成分が旺盛になる**野菜の栽培は**、土作りから始まる事実を明らかにし、そのカギを握るのは『**土の中の微生物**』だという事を説明しました。**微生物と植物の共生関係**こそが、私たちの身体に栄養を自然にある形、つまりバランスで与えてくれると発表しました。

そして当社はそれらを『**滋養のある野菜 =Nourishing Vegi**』という言葉で表現し、商標登録をしてブランド化しました。何故栄養という言葉を選んだかの説明は、栄養は栄養素と言う単体の集合体を意味しているにもかかわらず、えてしてその単体で捉

えられがちで、単体の栄養素同士の最も大切な『**調和**』を見失ってしまうことを避けたいからです。世界の成り立ちは凄くシンプルですが、それは大本の自然の摂理に於いてシンプルです。しかし、その末端のひとつひとつの要素に分解して存在させられるほど単純ではない証として、その複雑さの上に『生命』という、それこそ神でも持ってこないと解明できない不可思議さから出発しています。

また、発表は『**健康に育った野菜は美しく美味しい**』との結論に到達しています。生命維持に必要な最小限とは言い換えれば、遺伝子を次の世代に進化させて引き継ぐ事です。遺伝子を引き継ぐことを本質として捉え、このことがこのコロナ禍を潜り抜ける指針になると考えています。外食産業が苦しんでいるのではなく、食の本質から外れた食品産業全体が苦しむことが予想されます。

私たちは私企業ですので利益の向上は必要不可欠です。私自身も昨年によく目覚めさせて頂きました。ただ、それだけではやはりこの資本主義経済自体が終焉するのだとコロナ禍によって教えられている気がします。意識の高い資本主義というのか、公益資本主義というのか、利益の社会的還元を考えない資本主義が終焉しようとしています。そうでなければ、国家権力による経済の支配、暮らしの支配を許す政治を迎えてしまうと危惧しています。

米国の混乱を見て、ふと今までの談合による二大政党制が崩れ、一党独裁の社会主義的な露骨さが現れてくるような気がして、我が国を含む世界中の国々が、国家ではない一部の人間の都合によって蹂躪される事態の可能性を感じています。お金が国家に吸い上げられて国民・民間に戻る流れではなく、民間の中で循環する仕組みを作って行かなければいけないのではないかと考える次第です。

今月は随分風呂敷を広げた話しになってしまいました。

有限会社アルファー
吉田清一郎